



広瀬川 創生プラン

2025▶▶▶2034

広瀬川創生プランとは

※プランの概要版、本編はこちらのQRコードより確認できます。



「杜の都・仙台」のシンボルである広瀬川。この広瀬川の景観や自然環境等を、次世代に引き継いでいくためには多くの市民が広瀬川に親しみ、その魅力を感じる必要があります。

このため、広瀬川の豊かな自然環境の保全や安全安心な川づくり、そして新たな魅力の創出について、市民と協働で取り組んでいくことが重要です。

こうした取り組みを推進していくため平成17年3月に「広瀬川創生プラン」(以下「プラン」という。)を行動計画として策定しました。プランでは市民協働による広瀬川での活動を展開していくため、市民や市民活動団体、NPOだけでなく企業や行政も含め各主体に期待する役割や、取組事業の支援内容等を取りまとめています。

改定のポイント

プランの基本理念上の計画期間は50年となりますが、広瀬川を取り巻く状況の変化に対応するため、10年ごとに改定することとしております。今回、プランが3期目を迎えることから、2度目の改定を行いました。

これまでの取組み内容に、仙台市が進めるグリーンインフラの継続的な取組みや、「仙台市ダイバーシティ推進指針(令和7年3月)」の観点を取り入れたほか、少子高齢化や生活様式の多様化、担い手不足などの社会情勢の変化に対応するため、以下の4つの視点を取り入れました。

<p>視点1：基本理念・基本目標・施策の方向の承継 「広瀬川創生プラン素案」の理念上の計画期間(50年)を踏まえ、基本理念・目標等は承継します。</p>	<p>視点3：重点事業認定制度の拡充 小規模な活動についても重点事業の認定が可能なように、認定の基本的な考え方を見直します。</p>
<p>視点2：相互交流や連携、協力の更なる推進 SNSなどの活用や交流会の開催等によるネットワークづくりに取り組みます。</p>	<p>視点4：進行管理の見直し プランの推進における評価の対象者(協議会及び仙台市)とその内容(支援等の実施状況)をより明瞭にします。</p>

基本目標と施策の方向

【基本目標:i】河川環境の保全と向上

広瀬川流域の動植物とそれらを育む豊かな自然環境、水環境の保全につながる取組みを推進します。

施策の方向①/広瀬川流域の自然環境の保全

自然や生物とふれあい、その魅力と大切さについて学ぶ機会をとおして河川環境に対する市民の理解や関心を深め、広瀬川流域における動植物など豊かな自然環境を保全します。

施策の方向②/広瀬川の清流の保全

河川環境を保全する取組みにより、水生生物などの棲みかであり、水道やかんがいなど様々な目的で利用されている広瀬川の清流を保全します。



① 竜ノ口堰堤の切欠き魚道



② カジカガエル観察会

【基本目標:ii】河川と共にある暮らしの実現

広瀬川が市民の身近な存在であることを再認識してもらえる取組みを推進します。

施策の方向③/広瀬川の健全な水循環の推進

市民生活の多方面に利用されている広瀬川の水資源について、行政と関係者が連携しながら、流域全体の健全な水循環を目指した取組みを推進します。

施策の方向④/広瀬川に関する学びの推進

暮らしの中で広瀬川と日常的に関わってきた方々や、仙台市の教育、子育て、環境などの各部局・団体等とも連携しながら広瀬川に関する自然環境や市民生活、歴史・文化などについての学びの取組みを推進します。



① 学生との広瀬川歩き



② 広瀬川ガイドのためのスキルアップ講座

【基本目標:iii】治水・利水・親水の推進

広瀬川の安全に利用できる環境づくりとあわせて、水資源の有効な利活用や広瀬川の水辺を楽しめる取組みを推進します。

施策の方向⑤/安全安心な川づくりの推進

河川管理者による治水事業や広瀬川での治水や防災等の取組みに対する市民の理解を深めるための取組みを行うことで、官民一体の安全安心な川づくりを推進します。

施策の方向⑥/広瀬川の水の有効な利活用

広瀬川の水により潤いのある市民生活を実現するため、水資源の有効な利活用を推進します。

施策の方向⑦/水辺空間を楽しめる取組みの推進

世代や国籍の違い、障がいの有無なども含め、多様な市民の誰もが広瀬川で気軽に親しめる親水空間づくりにより、水辺の利活用を促進する取組みを推進します。



① 六郷堀・七郷堀非かんがい期通水事業



② 広瀬川(大橋周辺)水辺利活用の検討

【基本目標:iv】河川への関心向上

取組事業に参加する市民や来訪者を増やすため、市民等が広瀬川に親しむための取組みを推進します。

施策の方向⑧/市民への情報発信

さまざまな属性や立場の方に情報が伝わるよう配慮しながら、活動団体の取組みやプランの周知・広報を行うなど、広瀬川の魅力に関わる情報を広く発信します。

施策の方向⑨/広瀬川に関する催しの実施

誰もが気軽に広瀬川へ訪れる機会を創出し、広瀬川の魅力である歴史や文化、自然環境などを再認識できるイベント等の実施に取り組めます。



①・② 広瀬川自然体験学習



推進体制

【基本目標: v】市民協働の仕組みづくり

活動団体同士が連携・協力し取組事業への市民参画を促すとともに、仙台市も活動団体や取組事業を支援し市民協働を推進します。

施策の方向⑩/市民参画型事業の推進

様々な活動目的や背景をもつ活動団体の知識や経験、考え方を相互に掛け合わせることで、新たな発想やアイデアが生み出されていくよう、それぞれの交流を促進し、団体同士が連携・協力しながら市民参画しやすい事業に取組みます。

施策の方向⑪/市民活動や団体の支援

広瀬川に関わる市民活動やイベント等を行う活動団体を仙台市が支援します。また、団体同士の連携・協力を促進するためのきっかけづくりや新規活動に対する支援等により、取組事業の継続と新たな取組事業の創出を目指します。

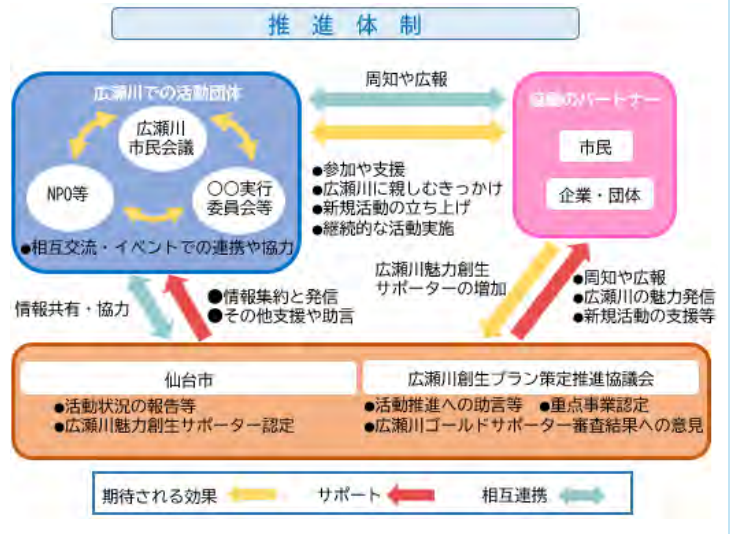


①広瀬川1万人プロジェクト河川・海岸一斉清掃 ②水辺で乾杯！

広瀬川での活動団体は、それぞれの立場で可能な取組みを引き続き進めます。また、今後は、さらなる団体相互の交流促進と、団体同士が連携・協力した活動を推進することにより、多様な個性や価値観の掛け合わせの中から新たな発想を生み出していくため、交流会の開催等、ネットワークづくりを検討します。

協議会は推進体制に基づく取組みに対して必要な助言や検討を行います。

仙台市は活動団体の取組みやプランを周知・広報し、広瀬川の魅力を発信することで、市民、企業・団体が協働のパートナーとして新たな活動へ参加することを促すとともに、活動の支援を行います。



広瀬川の魅力

上流域には鳳鳴四十八滝などの景勝地や豊かな自然があり、都市部が位置する中流域でも美しく壮大な自然崖や緑の景観を気軽に楽しむことができます。

また、日本の多くの都市が河川の下流、河口域に発達していますが、仙台市の市街地は中流域の河岸段丘上に発達している特徴があります。



①鳳鳴四十八滝 ②評定河原大露頭 ③モクスガニ(「カワラバン」提供写真) ④三居沢 ⑤大橋

仙台市の情報発信

● 広瀬川ホームページ

広瀬川創生プランの取組事業や広瀬川界隈のイベント情報を紹介しています！広瀬川の自然・歴史に関するデータや資料、親水スポットや散策ルートの情報など、広瀬川を身近に感じ、楽しめるコンテンツがたくさん掲載されておりますので、ぜひご覧ください。

<URL> <https://www.hirosegawa-net.com/>



主なコンテンツ

- 広瀬川を知ろう
 - 広瀬川を楽しもう
 - 活動団体の紹介
 - 清流を守る仕組み
 - イベントカレンダー
 - 広瀬川インタビュー
- (サンドウィッチマンさん、伊坂幸太郎さんなど)



QRコード

● 広瀬川インスタグラム

広瀬川に関する素敵なものを発信しておりますので、気になる方は、ぜひフォローしてみてください！

また、広瀬川に関する、あなたのとっておきの写真に#広瀬川をつけて投稿してみてくださいね！

<URL> <https://www.instagram.com/hiroseriversendai/>



プロフィール写真



QRコード

広瀬川の環境

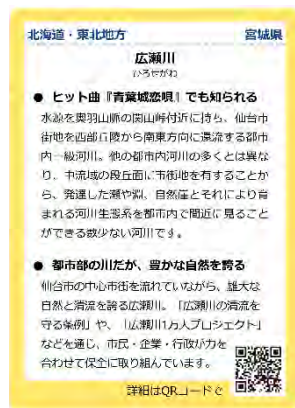
広瀬川は、1970年代には生活廃水の流入等によって水質は大きく悪化しました。この事態に対して、本市では全国に先駆けて河川環境を守るため、昭和49年に「広瀬川の清流を守る条例」を制定し、市民との協働により水質浄化や景観・自然環境の保全に取り組んできました。その結果、広瀬川は「名水百選」「日本の音風景百選」に選ばれるなど高い評価を受けるに至り、今日では全国的に名を知られる、市民共有の貴重な財産となっています。

● 名水百選

昭和60年、広瀬川は環境省(当時環境庁)により名水百選に選ばれました。名水百選カードは、仙台市百年の杜推進課にて配布しています。



名水百選カード(おもて)



名水百選カード(うら)

● 残したい日本の音風景100選

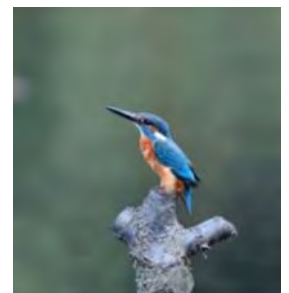
平成8年、環境省(当時環境庁)により「残したい」日本の音風景100選」として、「広瀬川のカジカガエルと野鳥」が選ばれました。



カジカガエル



ヤマセミ



カワセミ

広瀬川創生プラン 2025-2034